

氏名 森 俊 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 4 5 2 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和46年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 線維芽細胞抑制剤による悪性腫瘍の治療に関する研究
第 1 編 クロロキンと所謂制癌剤の併用療法に関する基礎的研究
第 2 編 クロロキンと所謂制癌剤併用の担腫瘍動物鉄代謝に及ぼす影響について
第 3 編 クロロキンとマイトマイシンC併用による各種癌患者の治療に関する研究

論 文 審 査 委 員 教授 小坂 淳 夫 教授 大 藤 真 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

線維芽細胞抑制剤クロロキンと所謂制癌剤の併用による悪性腫瘍の治療を試みた。第 1 編では Bashford 癌に及ぼす影響を検索した。即ちマイトマイシン C, サイクロフォスファミド, ヘマトポルフィリン水銀との併用では制癌剤単独投与に勝る腫瘍発育抑制がみられた。マイトマイシン C との併用実験に於ける組織学的検索では, 実質と間質の両面からの障害像が認められた。第 2 編では Bashford 癌マウスの貯蔵鉄に及ぼす影響を検索した。臓器総非ヘミン鉄量並びに単位重量当り非ヘミン鉄量には一定の傾向が認め難かったが, 腫瘍組織の単位重量当り非ヘミン鉄量は特にマイトマイシン C, ヘマトポルフィリン水銀との併用で制癌剤単独に比し減少傾向を示し, 腫瘍への非ヘミン鉄の蓄積が抑制される傾向が認められた。第 3 編ではマイトマイシン C 併用の臨床応用を試みた。その結果各種悪性腫瘍患者20例中軽快 6 例, 不変 6 例, 悪化 3 例, 判定不能 5 例の成績を得, クロロキン単独投与の成績に比し勝れた成績を得た。副作用は軽微で長期使用が可能であった。以上, 線維芽細胞抑制剤クロロキンと所謂制癌剤の併用は癌の化学療法上有意義であると考えられる。

(3 編共に昭和45年12月30日付発行 岡山医学会雑誌 第82巻, 11・12号に掲載予定)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は線維芽細胞抑制剤としてのクロロキンと所謂制癌剤を併用しての悪性腫瘍の治療効果を動物実験と臨床実験を行って検討したもので, その併用療法は癌の化学療法上有意義であり, 従来試みられていなかった療法で, 重要な知見を含み, 価値ある業績であると認める。

よって本研究者は, 医学博士の学位を得る資格があると認める。